

1-3-6-2 市指定・山岡鉄舟父母の墓

〈市指定〉昭和30年8月25日

〈所有者〉宗猷寺

〈所在地〉宗猷寺町218番地

〈時代〉江戸時代(19世紀)

〈員数〉2基ほか

父墓 棹石 高さ110.3cm、厚さ43.6cm、幅43.5cm

台石三重 高さ91.8cm

母墓 棹石 高さ100cm、厚さ30.3cm、幅36.6cm

台石三重 高さ77.3cm

東山宗猷寺本堂前に2基並んでいる。父の墓は棹石正面に「徳照院殿雄道堅達大居士」とあり、周囲に石柵をめぐらし、柵前に元締斎藤弘道・進野保寿・岩田幸通奉納の石燈籠1対がある。母の墓は棹石正面に「喬松院雪操貞顕大姉」とあり、周囲に石柵をめぐらし、柵前に小野高堅・塚原直昌・加藤師父造立の石燈籠1対、燈籠前に喬松院菩提のために設けた六道石がある。

鉄舟の父小野高福^{たかよし}は通称を朝右衛門といい、幕府旗本の士で禄600石を受けた。弘化2年(1845)江戸御蔵奉行から飛騨郡代に転じた。外国船渡来の形勢にかんがみ、城山^{のろし}で狼煙の実演をしたり、上野で陣立を行なったりした。嘉永5年(1852)2月28日高山で没、享年78。

鉄舟の母磯女は鹿島神宮の神官塚原石見の娘で、天保6年(1835)朝右衛門に嫁し、6男を生んだ。嘉永4年(1851)9月25日高山で没、享年41。

碑面の法号は、2基とも鉄舟の筆跡である。

参考文献

『高山の文化財』195～196頁 高山市教育委員会発行 平成6年3月31日